

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立吹上秋桜高等学校)

目指す学校像	生徒の新たなチャレンジをとことん支援し、可能性を伸ばす生徒応援学校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 「授業がいのち」を基盤とした基礎学力の定着 2 基本的生活習慣の確立と規範意識の涵養 3 キャリア教育により夢を実現させる進路指導 4 地域の関係機関と連携し、地域に根差し信頼される開かれた学校づくり
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	7名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月2日現在)		
年度目標					年度評価(2月2日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> 授業に熱心に取り組む生徒も多い反面、授業に集中しなかったり出席しないために未履修、未修得に至る生徒も多い。授業の大切さを自覚させ、出席を促す指導が必要である。 生徒の基礎学力定着を図るため、学習習慣を身に付けさせる指導や教育課程の編成の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善により基礎学力の向上 ○確かな学力を身に付けさせる教育課程の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ①欠課時数の多い生徒の情報を担任・教科担当が共有できるようにする。 ②授業アンケートを実施する。 ①教育課程委員会と連携し、基礎学力向上に資するよう、見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①未履修率が25%以下になったか。 ②授業アンケートを計画的に実施できたか。 ①生徒の実態に即した教育課程を編成することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期における未履修率は20.8%と、昨年に比べ大幅に改善している。 ・生徒の学習への取り組み状況は昨年度と同等であった。(生徒アンケートの結果より) ・各考査前に学習計画表を配布し、学習時間調査を行った。 ・教育課程委員会が中心となり、生徒の実態に即した教育課程を次年度より実施することとなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入学年次において、導入期の指導をしっかりと行い、スムーズに学習に取り組むように指導を継続する。 ・各考査前の学習計画表については、内容の改善を検討する。 ・新入生の教育課程については、各教科と連携し、効果を検証する必要がある。また、履修の手引きについては改善を図る。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校時代に比べ改善がみられる生徒も多いが、基本的な生活習慣が確立されず、欠席・遅刻・早退の多い生徒もいる。生徒が元気に登校できるよう教育相談体制を確立し、保護者と連携した指導が求められている。 ・規範意識が確立されていない生徒もいる。問題行動の未然防止を図り、集団生活におけるルールやマナーを育むために、より積極的な生徒指導に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員による粘り強く積極的な生徒指導の充実 ○保護者の教育相談環境を整え、連携した相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①各年次団と連携を図り、学校全体で組織的な生徒指導を展開する。 ②立哨指導、巡回指導を実施する。また、立哨指導等ではPTAとも連携を図る。 ③日々の清掃活動や、通学路清掃を通じて生徒の規範意識を高める。 ①教育相談委員会が中心となり、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携を図り、生徒だけでなく、保護者も相談できる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒特別指導件数が昨年度より減少したか。 ②欠席・遅刻・早退の数が昨年度より減少したか。 ③生徒の規範意識の向上がみられたか。 ①保護者が相談しやすい環境を整えることができたか。また、生徒が相談室を利用しやすい環境であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒特別指導件数は15件(25名)で、昨年度同時期と比較し5件(7名)減少した。 ・全教員による立哨指導、巡回指導を継続させた。またPTAと連携した立哨指導を年2回実施した。 ・清掃活動の習慣化を行い、各HR、階段廊下等の校内美化は維持されている。 ・12月末までの相談室の利用状況者数延べ人数は、生徒1241名、保護者17名であり、例年と同程度であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒特別指導件数は減少傾向にあるが、遅刻や欠席をする生徒は依然として多い。特に、中途退学者を除く長期欠席者数が昨年に比べ増加しており、長期欠席者への対応が課題である。 ・生徒、保護者がより利用しやすい相談室の環境を整えている。また、今年度7月に実施した保護者のつどいは大変好評であったため、次年度以降も継続できるように、教育相談員等と連携をしていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識が高い生徒も多い反面、卒業後の進路を意識できない生徒もいる。進路意識を高め自信を持たせ、進路決定に必要な基礎学力、資格、社会性などを育むキャリア教育の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○産社、総学とLHRの連携を図りキャリア教育の充実 ○コスモスステップによる基礎学力の向上、進路意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①各年次に応じた進路指導を行い、情報提供を適時に行う。 ②平日・長期休業中に補習を実施する。 ①学力向上推進委員会を中心に、学習サポーターと連携し、コスモスステップを計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①それぞれの生徒の進路希望を実現することができたか。 ②補習に参加する生徒が増えたか。 ①生徒の基礎学力が向上したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介就職希望者の94%が正社員として内定した。進学希望者は微減している。特別支援を要する生徒の進路開拓も進めることができた。 ・今年度よりコスモスステップを1年次の全生徒が計画的に実施し、基礎学力の向上につながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次から卒業後の出口を見据えた進路指導をする必要がある。また、多年次に渡る進路指導の進め方も模索する必要がある。特別支援を要する生徒も増加しており、進路先の確保をさらに進める。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校、地域、保護者に本校の教育活動に対する理解を、より深めてもらう必要がある。学校説明会やHPで本校の特色を情報発信するとともに、緊急時対応や情報提供のためにメール配信加入率を高める必要がある。 ・ボランティア活動や地域連携行事は、生徒の貴重な体験活動の場として多くの生徒が参加している。これをさらに発展させるため、PTA・地域の関係機関と連携強化した取組を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○HPによる教育活動の広報、およびメール配信による緊急連絡と広報活動の推進 ○PTA、地域の関係機関と連携する諸事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校説明会等に来校した生徒、在籍している生徒について中学校別に人数調査し、中学校との連携を図る。 ②不登校リーフレットを作成する。 ③HPに本校の活動を多く掲載する。 ①PTA行事等の日程、連絡方法を工夫し、積極的な参加を促す。 ②保護者へ文化祭や体育祭への協力を求め、積極的な参加をはたらきかける。 ③ボランティア活動等への、生徒の積極的な参加を働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①説明会や体験入学等の参加アンケートで、中学生・保護者の満足度が向上したか。 ②中学校訪問まとめ、不登校リーフレットを作成できたか。 ③HPの情報提供件数とアクセス数は増加したか。 ①保護者のPTA行事等への参加者数が増えたか。 ②生徒会行事への保護者の参加状況が向上したか。 ③ボランティア等に対する生徒の参加者数が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の体験入学や12月の説明会では例年より参加者が多かった。また、アンケートの結果は良好であった。 ・中学校訪問ではアンケートを実施した。不登校リーフレットではなくポスターを作成し、活用した。 ・HPは最新の学校の情報を発信できた。また、部活動のページの更新に向けた職員研修を行った。 ・PTAの活動においては、文化祭での販売を再開するなど、行事に積極的に参加する保護者が増えた。 ・ボランティアに参加する生徒数は延べ67名で、昨年度より20名増加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学や学校説明会への参加人数が増加しているため、説明会場を2か所準備する等の対応が今後は必要である。 ・教員研修後、部活動のページの更新件数は増加したが、更新があまりされていないページもあるため、今後もより多くの情報を発信できるように努める。 ・PTA広報も充実させることができたが、行事に参加するPTA役員や保護者が固定化されてしまっている。今後も粘り強く呼びかけ、発信し続ける必要がある。

学校関係者評価
実施日 平成29年 2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ○未履修者がかなり減少している。担任と教科担当が情報を共有するだけでなく、保護者への働きかけを粘り強くやっている成果だと思うので、継続させてほしい。 ○少人数での授業ということで、手厚い指導が行き届いている。 ○規範意識を向上させるために、警察等と連携し、様々な講演会(薬物乱用防止・交通安全・暴力根絶等)を実施することは有効であり、継続してほしい。 ○交通ルールの遵守など、先生方が生徒の見本となり、指導をし続けてほしい。 ○相談室の利用人数は例年通りであり、生徒たちは相談室だけでなく担任やその他の教員にも相談しやすいような雰囲気が学校にある。 ○世間全体としても、おとなしい学生が増えてきており、コミュニケーション力の低下が見受けられる。 ○コスモスステップはすばらしい取り組みで、基礎学力向上につながっている。 ○学校がとても落ち着いた様子である。 ○行事に参加する保護者が、ほぼPTA役員で、参加者が固定化してしまっている。役員以外の保護者の方にも、多く参加していただく方法を、考えていきたい。 ○ラインネットへの加入率を上げるような取り組みを、引き続き考え、少しでも多くの保護者が加入してくれるとよいと思う。